

## お江戸舟遊び瓦版 1051号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

### 第14回雨水ネットワーク全国大会 2024 in すみだ 雨を活かして、未来へつなごう

#### ゼロメートル地帯から考える雨と防災

日時： 8月3日

場所： すみだリバーサイドホール

主催：雨水ネットワーク全国大会 2024 実行委員会  
はじめに：

墨田区は荒川や隅田川などの河川に囲まれた地域で、大半が**海拔ゼロメートル地帯**。荒川などが氾濫すると区内の大部分が浸水する地帯と言われている。かつてはたびたび都市型水害に見舞われ、それを契機に雨水利用が促進されたという側面も。元旦の**能登半島地震**では、**雨水ろ過**が活用され、**有事の雨水活用**が注目される。



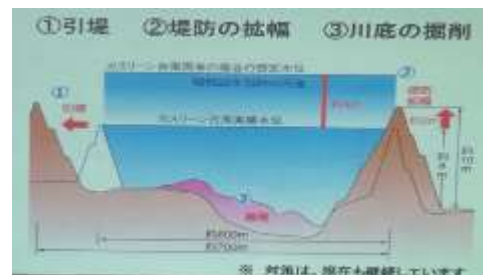
ゼロメートル地帯が判る江東5区の段ボールジオラマの展示

「江戸の水害対策」 **佐原滋元**（一寺言問を防災のまちにする会、向島百花園茶亭ささら亭主）

江戸時代から利根川・荒川は洪水が続き、明治43年世界最大級新産業都市東京は、大洪水で荒川放水路が建設された。その後工業用水とメタンガス採取で地下水を汲み上げ地盤が下がった。

「利根川と東日本台風」 **三橋さゆり**（日本建設情報総合センター、元利根川上流河川事務所長）

令和元年台風19号時は、昭和22年のカスリーン台風同様の雨量で、利根川も決壊寸前だった。10月13日6時に栗橋の計画高水位9.9mを越す11mが予測されたが、先人の**堤防強化対策**が功を奏し、ギリギリセーフだった。最近、新たなリスク（**地球温暖化、都市化、人口過密、地盤沈下、生活変化**）が加わり、墨田区で命を守るためには、正しい知識、**事前の備え**、情報の入手が必要だ。



「気候変動により激甚化・頻発化する浸水被害」 **阿部京**（東京都下水道局浸水対策推進課長）

地球温暖化で雨量は**10%増加**し、施設の耐水化等複合的な対策が必要になっている。

「墨田区の水害対策」 **岩本健一郎**（墨田区防災課長）

荒川氾濫で江東5区**250万人**の浸水が予測され、**江東5区広域避難推進**を進めている。浸水時間も大問題で、住民への啓蒙を進めているが**伝わっていない**。民間企業との連携事業も進めている。

Q&A：・ 台風19号時に曳舟の駐車場がパニックになった。

区長が避難指示を出し、3000人が避難し、大変な事態に。区役所には区民からの電話が鳴り続けた。

- ・ 雨水は洪水に有効と思う。積極的な雨水利用を広めたい。
- ・ 広域避難の訓練が大事だ。東京都強靱化プロジェクトでライフライン崩壊を前提に対策が進められている。

所感：雨水利用先進地・墨田区で貴重な「ゼロメートル地帯から考える雨と防災」のイベントが開かれた。江東5区マイナス地域の**250万人**を誰一人取り残さない抜本的な**地域防災計画**が今こそ必要になっている。（文責 中瀬）



日時：2024 年 8 月 15 日

主催：東京大空襲を語り継ぐつどい実行委員会

### 1. 東京大空襲を語り継ぐ 上原淳子

東京大空襲時私は 7 歳、**小学校 1 年生**だった。当時国民学校と言われ、男女は別の学校だった。常に**憲兵に監視**された状況だった。私の家は代々東京育ちで、親戚が地方になかったので、地方への**縁故疎開**はできずにいた。

**3 月 10 日**：この日は**陸軍記念日**で、空襲が予想されていたので、すぐ逃げられる準備をして家の地下室にいたが父が出て来いと言ったので、外に出ると**周りは火の海**だった。

初め、国民学校へ逃げたが、**満杯で入れず**、皇居の方へ逃げた。永代橋に行くと人だらけで、多くの人が**川に飛び込んで**いた。母が、**聖路加病院の方**へと言って、進んだ。帰路、道々には**黒焦げ**の人々が倒れていた。聖路加病院は米の資金で作られたので、**爆弾が落とされない**といわれていた。

- ・ 当時は命を守るために、毎日毎日**訓練**を続けていた。特に走ることに一生懸命だった。当時は怖さを通り越して、「**今日も生きていた**」と感じる日々だった。
- ・ 防火・延焼予防のために、**強制立退き**が行われ、強制的に家が潰され、空き地ができた。そこに学校から野菜の種を配られ、**野菜作り**を指導されたが、周囲はコンクリートのため無理だった。

**5 月 25 日**：この時は山の手空襲で、わたくしは**用水地に飛びこんで**助かったが、**弟は大火傷**を負った。幸い聖路加で治療していただいただけ治ることができた。

**6 月**：安全のために、知り合いの紹介で**信州へ疎開**した。親戚仲間で、3 軒の家を借りたが、水道も井戸もない**湧き水生活**だった。私は、地元になじめず、小学校（米沢国民学校）には**登校拒否**状態だった。地域の人々からは「**東京の奴らに食わせるもんか**」という雰囲気だった。

**8 月 15 日**：戦争が終わったと聞き、本当に**うれしかった**。東京に帰れると。

**終戦後**：終戦直後は築地に住み、**米軍の女性通訳**が我が家に住込んだ。よく米兵が遊びに来て、私が日本語を教えていた。見返りにチョコレートなどをたくさん頂いた。当時銀座には**9 割が米兵**で、通行人の子供たちにチョコレートなどをくれ、私には米兵は悪い人だとは思えなかった。築地で 2 年生活後、**深川に戻った**。深川は、朝鮮の方が多く、戦後は元気になり、今や大金持ちの人もある。

**戦時中の暮らし**：男性が戦地のため**女性と子供が働いた**。用水桶の水は女性が汲み、子どもが配った。**女の人にもタバコ**が配られ、両親のタバコの配給は一ヶ月分の葉タバコで辞書のページを撒いて煙草にした。当時は何か言うと人に聞かれてしまい憲兵に睨まれるので**ひそひそ話**しかできなかった。言論の自由はなかった。今のウクライナのような生易しい戦争ではなかった。

**語り部になったいきさつ**：江東区が戦時を語る人を 100 人募集し、話を聞く機会**で話をする自由**を知ることになった。22 年前にこの**東京大空襲戦災資料センター**ができ、**語り部**に応募した。

**今の戦争や日本をどう思うか**：男性は戦わねば生きていけないと思っているが、**女性は戦わない**。**女性が政治家の半数になれば戦争はなくせる**のではないかと思う。その後の楽しみは外国へ出かけることで、**70 か国**を訪問した。元々アメリカで**5 年間日本語教師**をしていたことも役立った。終戦直後は自由な教育だったが、マッカーサーが帰国後は自由がなくなった。戦前、日本は厳しいしつけがあったが、最近**は自由勝手**になり、若い人が言うことを聞かなくなった感がある。

最後に、**平和の大切さ**を知って欲しい。**二度と戦争は起こさない**ことを願う。

**終わりの挨拶・吉田館長**：敗戦時の方々が少なくなっている。戦争の厳しさを伝える**継承策**を模索している。**英語圏の見学者・インターン**が増えていることに今後も対応し続けたい。

**所感**：東京大空襲時 7 歳だった上原さんの話を聞く機会に恵まれた。戦時中の厳しさを語られ、**二度と決して戦争を起こしてはならない**と痛感させられた。永遠の平和を！（文責 中瀬）

